

2015 年度 IWC/日本共同北太平洋鯨類目視調査の終了について —IWC-POWER 調査航海—

平成 27 年 8 月 31 日
(一財) 日本鯨類研究所

1 経緯

本調査は IWC (国際捕鯨委員会) と我が国の共同によって実施されているもので、IWC では通称 POWER(Pacific Ocean Whale and Ecosystem Research)と呼ばれています。

この調査は、2009 年度まで南極海で行われていた世界的な成功例との高い評価を得ている IWC の調査 IWC/SOWER (International Whaling Commission-Southern Ocean Whale and Ecosystem Research : 南大洋鯨類生態系調査、1996/97 年度～2009/2010 年度)での経験と実績を踏まえ、そのノウハウ等を活用して、IWC 科学委員会の主要研究課題に則し、2010 年度より IWC と日本との共同で実施されている調査プログラムです。

昨年までの調査では、過去数十年にわたって広域的調査が実施されてこなかった北緯 30 度以北海域において、多数のナガスクジラ、イワシクジラ、ニタリクジラ、ザトウクジラ等が発見され、客観的な資源評価に貢献する貴重なデータが収集されてきました。今回は、その第 6 回目の調査航海となり、昨年までの調査海域のさらに南側(北緯 20 度以北、同 30 度以南)を対象に調査を実施しました。商業捕鯨時代以降調査が行われていない北東太平洋沖合海域において鯨類の発見がどの程度あるのか、内外の鯨類研究者からその調査結果が注目されています。また昨年度から、長年の懸案であった米国 EEZ 内でのバイオプシー・サンプル(皮膚組織標本)の採集が可能となるなど、国際調査としての実績を蓄積するとともに、関係国の協力体制がより強化されています。

2 調査計画と結果概要

本件目視調査は、IWC と日本国政府が共同して実施するもので、IWC 科学委員会が調査計画の策定を行い、同委員会内に設置された POWER 運営グループ(議長:東京海洋大学:加藤秀弘教授)の主導の下、水産総合研究センター国際水産資源研究所や米国 NOAA/NMFS アラスカ漁業科学センター等関係機関が協力して、具体的な調査航海計画の立案を行いました。同運営グループは、調査結果の分析についても、これを主導します。

今回の調査では、北東太平洋の公海を対象に 60 日間の目視調査を実施しました。このような長期間にわたって広大な海域を対象とした鯨類目視等調査を実施する能力は、現在のところ日本の鯨類調査船しか有していません。IWC 主導の下、日本の国際貢献として、今後も北太平洋における鯨類目視データの空白海域で調査を行っていくことが、鯨類資源の動態を知る上で大変重要となります。本調査航海は、水産庁からの委託を受け、(一財)日本鯨類研究所が実施しました。本年の調査計画とその結果概要は以下のとおりですが、昨年同様、調査海域内で多数のニタリクジラを発見し、同資源の頑健さを確認するとともに、そのほとんどから DNA 標本を採取することに成功しました。調査結果の詳細は明年の IWC 科学委員会年次会議にて発表されます。

2.1 主要調査目的:

- (1) ニタリクジラ、イワシクジラ、ナガスクジラ、その他鯨種の資源量推定
- (2) ニタリクジラ、イワシクジラ、ナガスクジラ、ザトウクジラ及びマッコウクジラ(及びその他鯨種)の系群構造に関する情報の収集(特にバイオプシー・サンプル(皮膚組織標本)の採集及び個体識別写真)
- (3) 北太平洋セミクジラ、シロナガスクジラ等希少鯨種の個体識別写真撮影及びバイオプシー・サンプルの採集

2.2. 航海期間: 平成 27 年 7 月 2 日(塩釜出港) - 8 月 30 日(塩釜入港)(全 60 日間)

2.3. 調査海域: 北緯 20 度以北、同 30 度以南、東経 170 度以東、西経 160 度以西(公海および米国 EEZ を含む。図 1 参照。)

2.4. 国際調査員:

松岡耕二(日本・調査団長・日本鯨類研究所)
James Gilpatrick(米国・Southwest Fisheries Science Center, NOAA/NMFS, USA)
Jessica Taylor(英国・IWC 選任国際調査員)
吉村勇(日本・IWC 選任国際調査員)

2.5. 調査船：第三勇新丸（(742 トン)、(株) 共同船舶所属、大越親正船長以下（17 名））

2.6. 総探索距離：4,306 海里（約 7,975km）

2.7. 主要な発見鯨種：

ニタリクジラ 46 群 52 頭、マッコウクジラ 32 群 93 頭、コマッコウ 2 群 5 頭、オガワコマッコウ 1 群 6 頭、アカボウクジラ 5 群 9 頭、タイヘイヨウアカボウモドキ 1 群 110 頭、シャチ 1 群 4 頭、ハナゴンドウ 7 群 85 頭、バンドウイルカ 4 群 36 頭、マダライルカ 8 群 531 頭、スジイルカ 5 群 279 頭、サラワクイルカ 2 群 333 頭

2.8. サンプル採集結果等

(1) 個体識別写真撮影（個体数）

ニタリクジラ 43 頭、マッコウクジラ 37 頭、シャチ 4 頭

(2) バイオプシー・サンプル採集（個体数）

ニタリクジラ 34 頭、マッコウクジラ 1 頭、シャチ 2 頭

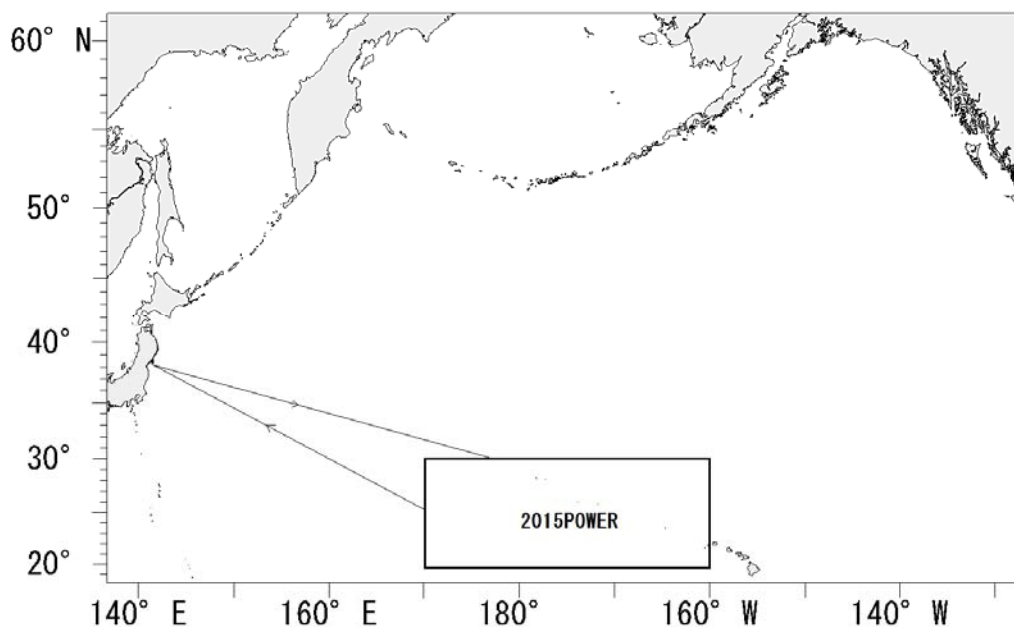


図 1. 2015 年の調査海域。

写真：2015年度調査の様子



浮上したニタリクジラの親子



ニタリクジラのブリーチング



調査船に接近してくるマッコウクジラの子鯨



バイオペシー実験風景（海中を遊泳するニタリクジラの親子）



シャチの群れ



調査海域の最東端にて（第三勇新丸船首デッキにて）